

平成 29 年度播磨ゆめづくり塾事業 採択事業
みんなでつくろう。はりまの暮らし塾 実施報告書

塾の目的

本塾は播磨町に「みんなの居場所」をつくるのが目的です。既に増え始めている空き家を活用したいと思っています。まずは、塾のメンバーと一緒に「播磨町のまちづくり」について語り合い、ともに活動できる仲間を作ることを第一目的として活動します。

またワークショップなどを通じて、昔から播磨町に住む方と新しく播磨町に住み始めた方がつながるきっかけを作ることも目的としています。

塾の活動記録・成果

今年度の活動は以下の通り実施しました。周辺状況の変化により、何度かの計画変更があったものの、申請時の計画を実施できました。また、途中で塾生が新規参加するなど様々な世代での交流を進めながら事業実施ができました。

表 1. 今年度の塾開講まとめ

日付	時間	内容	人数	場所
9月10日	10:00~12:00	塾キックオフ	4人	コーポラスはりま
10月8日	10:00~12:00	播磨町のいいところ、 残念なところワークショップ	5人	コーポラスはりま
11月5日	10:00~12:00	まちづくりワークショップの検討	4人	コーポラスはりま
2月3日	10:00~12:00	拠点リノベの検討	4人	コーポラスはりま
2月10日	10:00~15:00	リノベーション作業①	4人	北野添
3月11日	10:00~12:00	はりままちづくり会議 vol.01	9人	中央公民館
3月15日	20:00~22:00	リノベーション作業②	4人	北野添

成果

本活動においては、以下の成果が得られました。まだ活動は小さな状態ですが、次年度以降の展開で更に多くの播磨町民を巻き込みながら進めていきます。

① 新たなつながりが生まれた

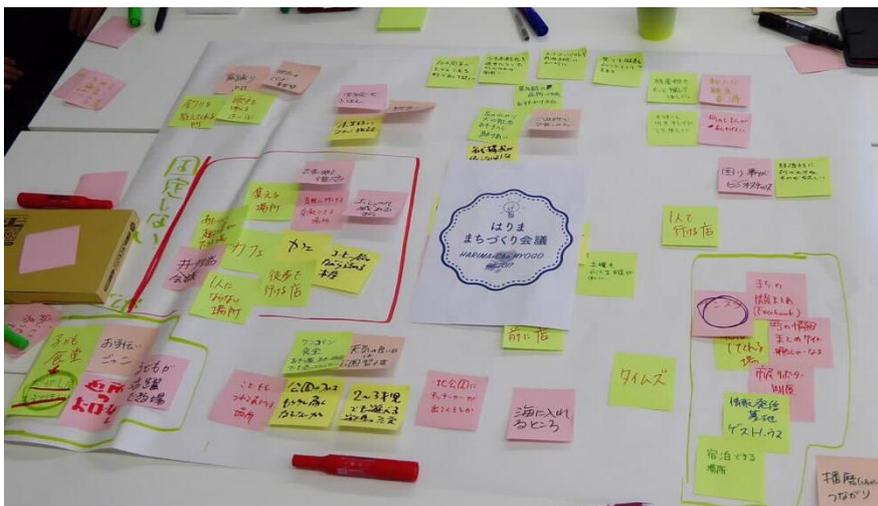
本塾の参加者は 20 代から 50 代まで幅が広く、また播磨町での居住歴もさまざまでした。例えば、ある人を介して知り合い同士であったり、メディアに取り上げられて知っていたりと、不思議なつながりがたくさん生まれました。また、年末になってからも塾に参加したいと連絡が複数件入るなど、参加のハードルを低い状態にできました。今年度はまず語り合うことを目的としていたため、非常に有意義な場となりました。

② 地域拠点を整備できた

当初予定していた物件がうまく進まず、また他の物件もなかなか見つからず、計画をすすめるのに苦慮した時期もありましたが、最終的に拠点整備に進めたことは今年度の成果といえます。来年度はこの拠点で勉強会や学びの会を続ける予定としています。

③ 「はりままちづくり会議」という会議体を立ち上げた

3月に「はりままちづくり会議」という名称で広く参加者を集めて会議を開催しました。ここには町外からの参加者もありました。狙いとしては、町民が播磨町のことをどう思っているか、また町外の方はどう思っているかを語り合う時間を作ろうとしました。結果、拠点活用の新たなアイデアが出て来るなど非常に有意義な場になりました。はりままちづくり会議は今後も2ヶ月に1度のペースでゆるく開催する予定です。



■ 今後への課題

① 適切な開催頻度

塾は月ペースでの開催を続けました。今後ははりままちづくり会議として、2ヶ月に1度のペースで開催しますが、果たしてそれが適切な回数なのか不明な状態です。

② 情報発信の少なさ

塾開催のアナウンスが直前になることが多く、新たな参加者獲得に動けませんでした。今後は町の広報部門とも連携し、より広く効果的に情報発信を進める予定です。

■ 塾からの気づき

ここからは塾を開催してみてもの塾長の私見です。播磨町において、住民参加のまちづくりをすすめる難しさを感じました。例えば、ワークショップで播磨町の良いところをみんなで出し合うと、「公園がきれい」や「ゴミが少ない」など環境面の評価が高く、非常に豊かで暮らしやすいまちだということがわかりました。一方で、まちの課題はあまりなく、唯一「ふらっと人の集まれる場所が少ない」や「若者が行きたいおしゃれな場所が無い」といった具合に人と人が交流する場の少なさが抽出されました。つまり塾に参加しているメンバーは今の暮らしに満足しており、近々に迫った課題が無いのです。

兵庫県で一番小さな町である播磨町の今後には、新旧住民同士がお互いに手を取り合い、交流できる人と人のつながりの豊かさが必要なのでは？と思うようになりました。次年度以降は、今年度整備した拠点での交流会や勉強会を開催し、まちづくりに関する学びとともに、新たなつながりがうまれるように実行していきます。